

「牛蒡めん美人」などつがるブランドに認定



左) つがるブランド認定を受けた「牛蒡めん美人」
右) 幅広い角度から加工品を審査する委員

つがるブランド認定審査会が7月13日、松の館で開催され、「牛蒡めん美人」など5品目が審査の結果、つがるブランドに認定されました。

審査会では、申請者が加工品のセールスポイントを説明。5人の委員が試食し、原材料、製法、パッケージ、ネーミングなどについて質問しました。郷土色、物語性、食味、意匠、価格などの認定基準に基づいて審査した結果、いずれも審査基準を満たし、稲垣ViCの会が製造するトマトジュース、ゼリー、ジャムと、つがる地球村が販売するトマトアイスが再認定。むらおこし拠点館活性化推進協議会が申請した「牛蒡めん美人」が新規で認定を受けました。

「牛蒡めん美人」は、牛蒡をうどんに練り込んだもので、食物繊維が豊富で、牛蒡の風味と歯ごたえが特長です。

阪本順治監督、豊川悦司さん、石原さとみさんがトーク あおもり映画祭20周年イベント

「あおもり映画祭20周年スペシャルドリーム がんばろう東北復興チャリティー」が7月10日、松の館で開催され、同映画祭に縁のある阪本順治監督、俳優の豊川悦司さん、女優の石原さとみさんがゲスト出演し、会場に詰め掛けた市民らと交流しました。

阪本監督は「この映画祭に来て東京に戻ると『また頑張らなければ』と思う。皆さんも次の20年に向けて頑張ってもらいたい」と関係者にエールを送ると、豊川さんは「ファンの皆さんと直接会うとお互いが元気付けられる。この感覚を大切にしていきたい」、石原さんは「飛行機から見た青森は本当に美しかった。皆さんの笑顔を見てほっとしました」と話しました。

会場では、県内ロケの「傷だらけの天使」など阪本監督の作品3本が上映されました。また、入場料の一部が東日本大震災の義援金に充てられるほか、会場に設置された義援金募金箱に来場者が協力していました。



右から阪本監督、豊川悦司さん、石原さとみさん、川嶋大史実行委員会本部事務局代表

高齢者が安心して暮らせるまちづくりを目指して 市老人福祉計画・第5期介護保険事業計画策定委員会



委員会で意見を述べる秋田会長

6月30日、市役所でつがる市老人福祉計画・介護保険事業計画策定委員に委嘱状が交付されました。

介護保険制度が創設されてから12年目。サービス利用者が増加し高齢者を支える制度として定着してきましたが、市では一人暮らし高齢者や高齢者世帯の増加により高齢化が進んでいます。さらに、団塊世代の方が徐々に高齢者となってきています。本計画は、これらの現状を踏まえ、介護予防・高齢者福祉サービス等の充実を図り、高齢者が安心して暮らせるまちづくりを目指し、今後3年間の計画として今年度末までに策定される予定です。

第1回策定委員会で会長には秋田豊年氏、副会長には鈴木克隆氏が選出され、市の介護・福祉の現状と課題について意見交換しました。

平山ゆりあさん(牛潟小6年)が走り高跳びで県新記録、全国大会へ



平山ゆりあさん(中)

第27回全国小学生陸上競技交流大会青森県選手選考会(6月26日、県総合運動公園陸上競技場で開催)で、平山ゆりあさん(牛潟小6年)が走り高跳びで1m36cmの県新記録(大会新記録)で見事優勝し、8月の神奈川県・日産スタジアムで開催される全国大会の出場切符を手にしました。

7月4日、福島市長へ報告に訪れた平山さんは「県大会では緊張もなく力を出し切れた。全国大会では3位以内に入れるよう頑張りたい」と抱負を述べると、福島市長は「大会新記録とはすごいこと。全国大会に向けてケガをしないように練習頑張ってください」と激励しました。

田中匠瑛さん(木造)が東北大会でV、全国大会入賞目指す



田中匠瑛さん(左から2人目)

東北学生陸上競技対校選手権大会(6月26日～28日、秋田県営陸上競技場で開催)の男子800mで青森大学2年の田中匠瑛さん(木造)が見事優勝を果たし、7月11日、福島市長へ報告に訪れました。田中さんは男子800mで1分56秒51の成績を収め優勝を果たし、9月9日～11日、熊本県で行われる全国大会に東北代表として出場します。

この日、同大学陸上部の石橋修監督らと市役所に訪れた田中さんは「今回のタイムには満足していない。今後、体力やここぞという時のスピードの切り替えを向上するよう練習に励み、全国大会で入賞を目指したい」と話すと、福島市長は「プレッシャーが掛かるとは思いますが頑張ってください」とエールを送りました。

海を越えた善意 姉妹都市米国メイン州バス市から青森県に義援金

市の姉妹都市である米国メイン州バス市の「バス市つがる市姉妹都市プログラム」が東日本大震災の被災地復興に役立ててほしいと義援金約113万円を青森県災害対策本部に寄付しました。

両市の姉妹都市交流活動を担う同団体は今回、義援金募金イベントとしてチェスボロースイムやオークションを実施し、約72万円の募金が集まり、また、バス市民や団体からの募金約41万円が寄せられ、6月17日に送金しました。

昨年の夏、つがる市を訪問した同団体のデボラ・パテン会長は「東日本大震災のひどさを知り、日本人の友達を助けたい気持ちでいっぱいでした。バス市民から青森県の友達への義援金は復興に役立ててもらえればと思っています」とメールで温かいメッセージを寄せてくれました。



右) デボラ・パテン会長
下) 義援金の募金イベントとしてバス市で行われたチェスボロースイム

犯罪のない明るいまちに

犯罪や非行のない明るい社会を築こうと全国的に展開している「第61回社会を明るくする運動」市民集会が7月1日、関係者や市民ら約400人が参加して松の館で開催されました。

集会は、福島市長のあいさつに続き、瑞穂小学校5年の福島永子さんが「つがる市が心も体も元気な子どもたちでいっぱいになるように頑張ります」と誓いのことばを発表。昨年の同運動作文コンクールで受賞した秋田谷和夏さん（車力中1年）と玉澤愛さん（柏中2年）がそれぞれ作文を読み上げ、育成小学校児童が三方荒神鹿島獅子の演舞を披露しました。



誓いのことばを述べる福島永子さん（左）



協力してごみを集める生徒たち

木造中学生が海開き前の海岸清掃奉仕

木造中学校(三浦正人校長)の2年生134人と保護者ら約20人が7月8日、海開き前の出来島海水浴場の海岸を清掃奉仕しました。

この日は、平川真吾教諭が「力を合わせて海岸をきれいにして地域に貢献しましょう」とあいさつ。生徒たちは砂浜に打ち上げられたプラスチックごみや木材、空き缶、ビン類などを拾い集め、海岸清掃に汗を流しました。2学年生徒会長の佐藤駿君は「ごみがたくさんあってびっくりした。来た人が気持ちよく海水浴を楽しんでもらえればと思い一生懸命拾いました」と話していました。

出来島海岸、マグアビーチで海開き

7月16日、出来島海水浴場とマグアビーチで海開き式が行われ、福島市長はじめ関係者が参列し、8月21日までの遊泳期間の無事故を祈願しました。

出来島海岸では地元住民らが砂浜の清掃を行い、海開き式後、市消防署員が救急法の講習会を開き、監視員らに人工呼吸の方法や自動体外式除細動器（AED）の使い方を指導しました。

マグアビーチでは米陸軍車力通信所関係者も住民とともに海岸清掃に参加し、環境美化に貢献しました。同ビーチでは子どもの安全のためにウエットスーツとライフジャケットを無料で貸し出ししています。



玉串をささげ安全を祈願する福島市長



泳ぎ方を学ぶ車力小学校3、4年生

水辺の事故から身を守ろう

7月15日、19日、20日、富范小学校、車力小学校、牛溝小学校のプールで全校児童を対象にライフセービング体験・遊泳指導が行われました。これは、子どもたちに水辺の事故から身を守る知識や技術を学んでもらおうとライフセーバーの斎藤俊史さんを講師に2年前から行われています。

このうち、車力小学校の授業では斎藤さんが実際にライフセービングを実演。波に飲み込まれない歩き方や泳ぎ方などのポイントを指導しました。斎藤さんは「事故を未然に防ぐのがライフセーバーの一番の役割。体験を通して命の大切さも学んでほしい」と話していました。



恒久平和を願い戦没者の冥福を祈る

「つがる市戦没者追悼・平和祈念式」が7月21日、松の館で行われ、戦没者1,325人の冥福を祈りました。

式典には約200人が参列し、戦没者の御霊に黙とうをささげた後、佐藤副市長が「戦争のない明るい世界を実現するため、平和への願いを発信し続けます」と福島市長のメッセージを代読。市遺族会の工藤光則会長が「恒久平和の大切さを戦争を知らない次の世代へしっかり引き継いでまいります」と追悼の言葉を述べました。参列者は標柱が飾られた祭壇に白い菊を献花し、また「蕾の会」による追悼合唱も行われ、戦没者に思いをはせていました。



平和への願いを込め追悼合唱



古田川をゆっくりと流れる灯ろう

灯ろうに願いを込めて

水虎大明神がまつられている木造千年で7月20日、宵宮が行われました。

30年ほど前から行われているという“灯ろう流し”は、おぼろに光る灯ろうが古田川の水路をゆっくりと流され、辺りは幻想的な雰囲気になっていました。今年は大震災の影響もあってか、安全を祈願する灯ろうが多いということでした。また、かっぱ広場周辺には金魚すくいやくじ引きなど多くの露店が軒を連ね、浴衣姿も多く見られ、宵宮という夏の風物詩を楽しんでいました。

夏祭りで元気にいきいきと

健康増進と交流を目的に市養護老人ホームぎんなん荘で7月20日、夏祭りが行われ、入所者が、カラオケや踊りなどの演芸を楽しみました。

夏を彩る金魚ねぶたなどが飾られた所内で入所者らは自慢ののどを披露。懐かしの名曲が歌われると若い頃に思いをよせ、手拍子で応える場面も見られました。歌に合わせて軽快に踊りも披露し、元気に夏祭りを満喫していました。

また、市内在住の佐々木賢一さんによる三味線の生演奏なども行われ、入所者らは迫力ある演奏に聞き入っていました。



歌声を披露する須藤マチエさん



和やかな雰囲気の中、ネイルアートに集中

子育てママがネイルアートに挑戦

子育て真っ最中のお母さんたちの豊かな心と仲間づくりに役立ててもらおうと7月13日、松の館で「ママの子育てプチ講座」が開催されました。

講座は全5回で、初回は市内在住のネイリスト葛西みくさんを講師に迎え、お母さんたち11人がネイルアートに挑戦しました。参加者は付け爪に、ストーンと呼ばれる飾りを1つ1つ丁寧に貼り付け、思い思いの模様を描いて、おしゃれなネイルアートを完成させました。参加者は「託児室があるので、ゆっくり楽しむことができた。家でもやってみたい」と話していました。